



JICA 開発大学院連携



背景・趣旨

日本は、非西洋から先進国となった最初の例であり、伝統と近代を両立させ、自由で平和で豊かな民主的な国を作り上げた、途上国の発展のベストモデルの一つです。

また、日本が政府開発援助（ODA）で重点的に支援してきたアジア諸国は目覚ましい経済発展を遂げており、この成功の経験を基に、現在他の地域にも援助を積極的に展開しています。

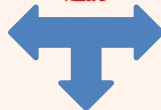
こうした経験や知見から、日本は世界の中で開発学をリードする国となり得ると考えています。

「JICA開発大学院連携」では、開発途上国の未来と発展を支えるリーダーとなる人材を日本に招き、欧米とは異なる日本の近代の開発経験と、戦後の援助実施国（ドナー）としての知見の両面を学ぶ機会を提供いたします。

本事業は、日本政府が推進する「明治150年」関連施策の一つとして発足します。



連携



国内の大学

日本の開発経験及びODAの知見に関する講義を含むプログラムを提供



概要

「JICA開発大学院連携」は、趣旨に賛同する国内の大学とJICAが連携し、開発途上国から来日した人材が、大学の学位課程の中で専門分野の教育・研究に加え、日本の開発経験(日本の近代化の経験や戦後のドナーとしての知見)について英語で学ぶプログラム(*)を提供します。

これにより途上国の人材が、体系的に日本を理解し、帰国後に母国の発展に効果的に役立ててもらおうことを狙っています。

さらには、日本で学んだ途上国の人材が、母国で、知日派・親日派のトップリーダーとして活躍し、両国間関係が中長期的に維持・強化されることが期待されます。

また、途上国からの優れた人材の受入を通じて、国内の地域活性化や大学の活性化、日本でのグローバル人材育成などの副次的効果も狙っています。

(*)「JICA開発大学院連携プログラム」

プログラムの内容

【各大学におけるプログラム】（下図①部分）

以下の4つの領域において連携する大学の既存学位課程をベースとして、日本の開発経験及びODAの知見に学ぶ機会（カリキュラム）を、JICAの人材育成事業により来日する開発途上国の人材に提供します。

- | | | |
|-------------------|---|-------------------------|
| 1) 政治・法領域 | : | 政治、法、行政、国際政治、等 |
| 2) 経済領域 | : | 経済、金融、産業開発、経営、等 |
| 3) 社会開発領域 | : | 教育、保健、国土開発、農業経済、環境、防災、等 |
| 4) 科学技術・イノベーション領域 | : | 工学、理学、農学、医学、IT、ものづくり、等 |

【短期共通プログラム】（下図②部分）

日本の開発経験の理解促進のための日本の政治・行政・経済・社会等の現状について学ぶ導入講座として、JICAの人材育成事業により来日する開発途上国の人材を対象（*）に、JICAが提供する短期集中型（7日間程度）のプログラムです。

（*）短期共通プログラムの受講は任意。受講可能人数は順次拡大予定。

JICA開発大学院連携プログラム

大学における講義（単位認定）

必修科目

選択科目

必修または選択科目として日本の開発経験及びODAの知見に関する講義を履修（①）



短期
共通
プログラ
ム
②



受講対象者

JICA開発大学院連携プログラムを提供する研究科に在籍するJICAの人材育成事業により来日する開発途上国の人材を対象とします。本プログラムで提供される日本の開発経験及びODAの経験に関する講義については、他の留学生及び日本人学生の受講も推奨します。日本との双方向の学びによる新たな価値の創造と学生・教員との相互理解促進を図ります。



独立行政法人 国際協力機構

JICA開発大学院連携推進室

〒102-8012
東京都千代田区二番町5-25
二番町センタービル
TEL: 03-5226-6900
E-mail: tagua@jica.go.jp